Fujitsu UVANCE

工程設計・製造プロセス結合による

工場のQCD向上

Sustainable Manufacturing

Manufacturing Operation

Management



富士通が目指すサステナブルなものづくり

製造業は、気候変動や地政学的緊張、顧客ニーズの変化、資材やエネルギーコストの向上、人材不足など、多くの課題に 直面しています。

これらの課題に対処するために、製造業は効率性を追求することで競争力を強化することができます。企業全体の効率性を高めるためには、バリューチェーン全体でのモノとプロセスのリアルタイムな可視化が必要です。

この包括的な可視化のアプローチとることで、企業の効率性 と透明性を生み出し、持続可能な製造業へと変革することが できます。

富士通は、高度なデータ能力と深い業界専門知識を もとにエンドツーエンドのデータを収集・管理・分析するオファリングを提供し、製造業者が効率性と 透明性を向上させるご支援をしています。



目次



- 1. 解決する課題
- 2. 富士通が描く品質とコストの両立
- 3. Manufacturing Operation Management の解決へのアプローチ
- 4. 解決策①
- 5. 解決策②
- 6. 解決策③
- 7. Manufacturing Operation Management の期待効果



循環型経済を見据えた品質とコストを両立する製造と供給

部品と設備のコモディティ化や競争相手のグローバル化、異業種参入により、企業の参入障壁が下がっています。その結果、EVの発火等の事例のように、品質の安定しない商品が低価格で市場に供給されるようになっており、商品廃棄など環境に望ましくない状況も発生しています。

このように競争が激しさを増す中、安定した品質の商品を提供するためには、企業は更なるQCD観点で競争力の強化が求められております。設計部門、製造部門が個別で改善サイクルを回す従来手法では大きな変革が困難となっています。



富士通が描く品質とコストの両立

競争の激化に対処し、品質とコストを両立する ためには、設計・製造部門の連携による革新が 求められます。富士通は、部門ごとの個別カイ ゼンを越えるQCDの向上のために、部品情報 に基づいて標準化された手順や設計図と工場の 製造実績を紐づけして一元管理します。

製造時に発生した不具合が、どの製品、どのラインでエラーが発生したのか、問題は部品起因か人的要因かなどを定量的に分析できるようになり、全拠点でのQCDが向上します。

工程設計と製造をBOPデータモデルでつなぐナレッジをもとにした富士通のオファリング

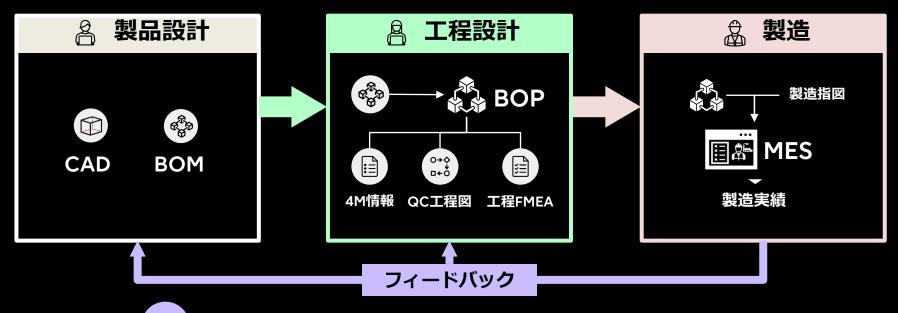
「Manufacturing Operation Management」が、 皆様の品質とコストの両立をどのようにご支援する かの例を次ページ以降で紹介します。



Manufacturing Operation Management の解決へのアプローチ



- BOPデータモデル活用による シミュレーション・デザインレビューの効率化
- 2 工程設計標準化による拠点・部門間の 円滑なコミュニケーション



3 製造実績値の定量的な分析と改善に向けた情報のフィードバック



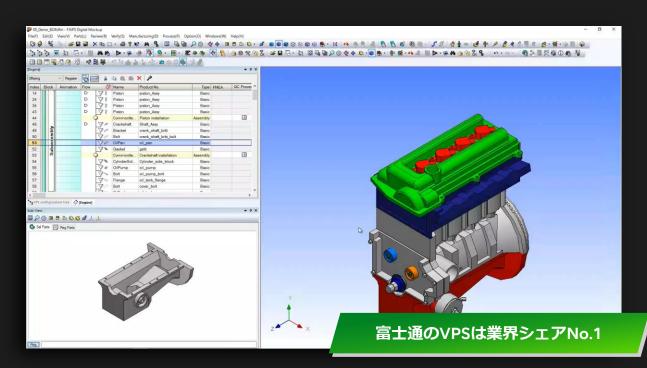
解決策 ①

BOPデータモデル活用によるシミュレーション・ デザインレビューの効率化



工程設計では、CADや部品表の情報から加工や組み立ての手順を検討し、BOPと呼ばれる製造プロセス情報を作成します。

BOPは、操作性で評価が高く業界シェアナンバーワンの富士通のVPSで作成します。

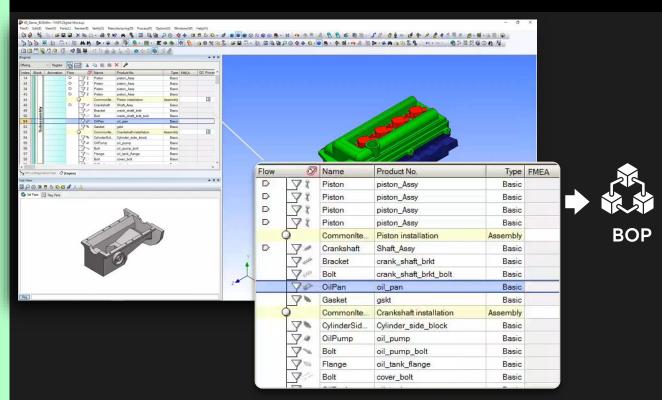




BOPデータモデル活用によるシミュレーション・ デザインレビューの効率化



どのような順番で、どこで製造し、どのような品質指標とするかを検討したものがツリー形式で表示されます。



解決策 🛈

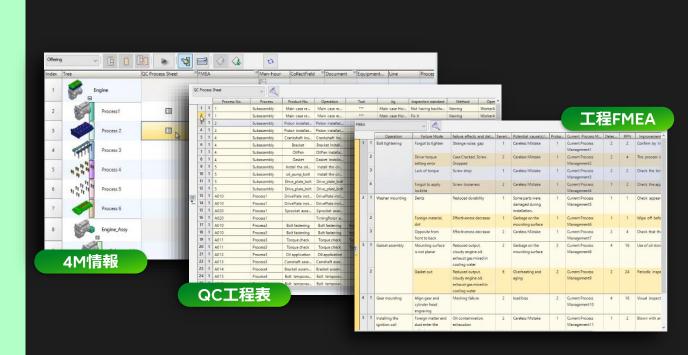
BOPデータモデル活用によるシミュレーション・ デザインレビューの効率化



人、機械、材料、方法の 4M情報、品質管理情報、 故障を体系的に分析する ためのFMEAと呼ばれる 情報を設定することがで きます。

富士通は豊富な実績から、 お客様に最適なBOPデー タモデルを提供します。

これにより標準化された 品質指標に基づいたシ ミュレーションやデザイ ンレビューの効率化を図 ることができます。



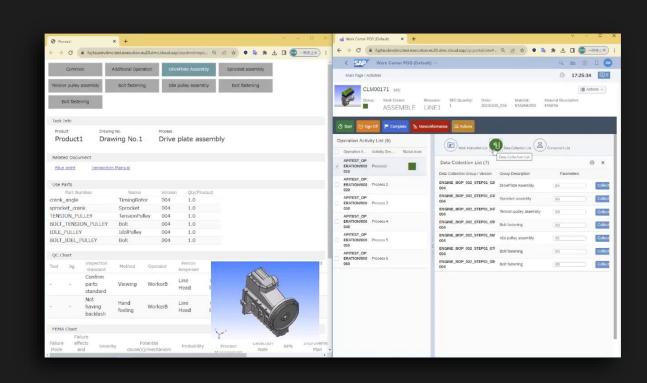
解決策(2)

工程設計標準化による拠点・部門間の円滑な コミュニケーション



製造実行システムの画面です。

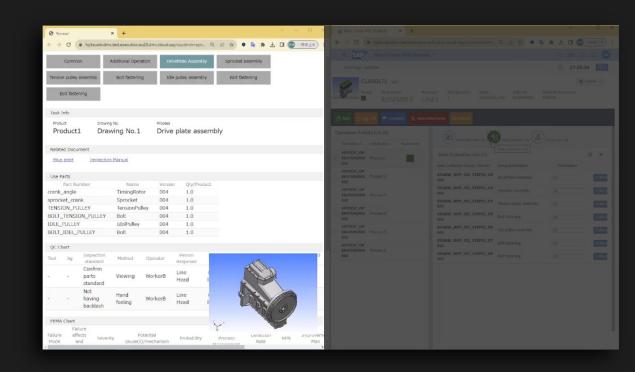
VPSで設定した品質指標やFMEAの情報が、製造実行システムにも連携されます。



工程設計標準化による拠点・部門間の円滑な コミュニケーション



BOPデータをもとに、作 業手順書を簡単に自動生 成することができます。



自動生成された作業手順書



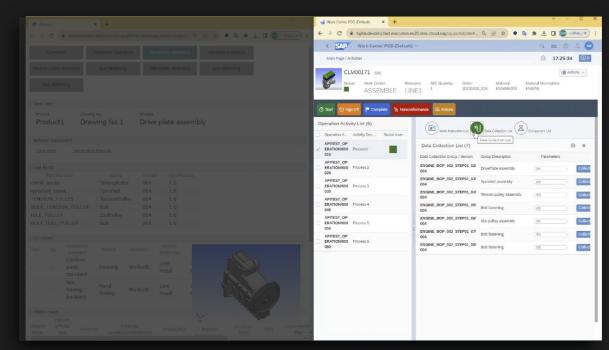
解決策(2)

工程設計標準化による拠点・部門間の円滑な コミュニケーション



作業手順を見ながら、工程ごとの品質に関わる製造実績結果を入力することができます。

標準化された作業手順により、部門間のコミュニケーションが円滑になり、生産準備期間を短縮し、 さらには、全拠点で安定した品質のものづくりが可能になります。



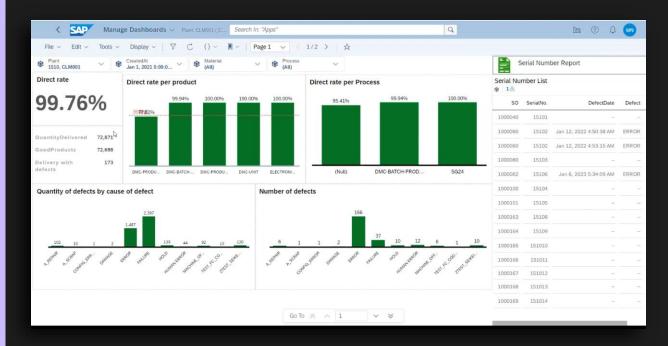
品質に関わる製造実績結果



製造実績値の定量的な分析と改善に向けた情報の フィードバック



製造現場で収集したデータを見える化した画面です。

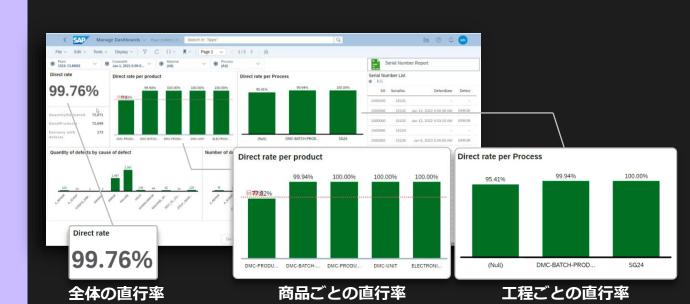


解決策 (3)

製造実績値の定量的な分析と改善に向けた情報の フィードバック



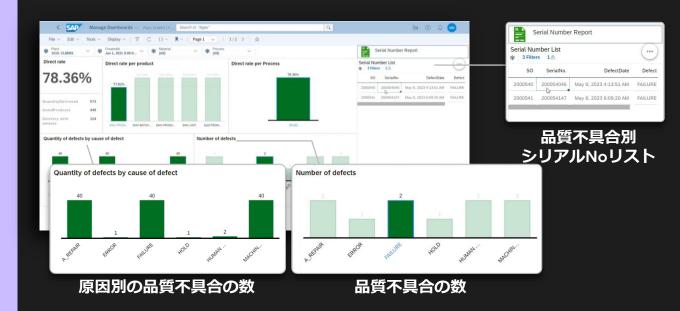
この画面では、全体の直 行率、商品ごとの直行率、 工程ごとの直行率がわか ります。



製造実績値の定量的な分析と改善に向けた情報のフィードバック



さらにドリルダウンして いくと、不良品ごとの製 造番号リスト、原因別の 不良数、不良発生回数を 定量的に確認し、分析す ることができます。

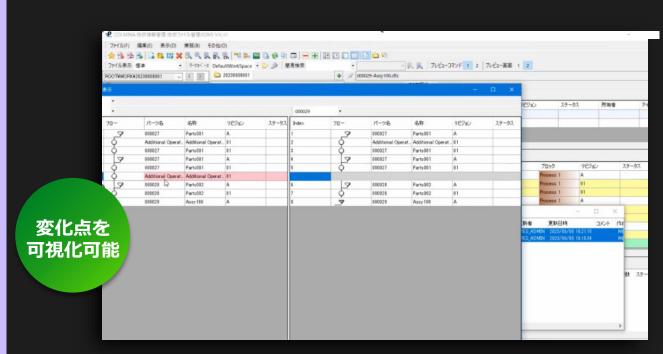


製造実績値の定量的な分析と改善に向けた情報の フィードバック



不良発生に伴い設計変更された情報は、VPS上でバージョン管理することで変化点を可視化することができます。

分析結果を上流工程に フィードバックすること で、全社での継続的な品 質改善が可能になります。







Manufacturing Operation Management の期待効果



3D-BOPによる作業の可視化

標準化されたBOPの拠点活用 MESマスタとしての活用 品質情報フィードバックでの カイゼンサイクル実現

01

工程設計 デザインレビュー工数

50%削減

02

生産準備期間 (工程設計+リソース準備)

約2ケ月短縮

03

製造時に発生した品質問題の件数

80%削減





お問い合わせ

富士通の専門家が、お客様固有の製造上の課題を解決するための協力 方法についてご説明します。

お問い合わせはこちらからお願いします

本資料内容に関するお問い合わせは、担当営業にご連絡いただく、 または、左記のお問い合わせサイトからお願いたいします。

